

平成 29 年度全国学力学習状況調査の結果分析

京都市立桂中学校

4月18日に本校3年生対象に実施された全国学力学習状況調査の結果が、文部科学省より公表されました。その調査結果を受けて、本校生徒の学力および学習状況の傾向や課題を以下のように分析しました。

総合結果(国語・数学)

両教科ともほとんどの領域・観点・問題形式において、全国平均及び京都府平均を大幅に上回る正答率なので、基礎的な知識も活用力も十分に身についていることがわかります。また、無回答率の低さも目立っており、最後まであきらめずに取り組む姿勢が際立っています。

国語 分析

国語A、国語Bともにすべての設問で全国平均を上回っており、課題を見つけることはできません。特に優れた点として、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」など言語活動能力の高さが目立ちました。しかし、「国語が好き」「読書が好き」の割合が全国平均より低くなっています。

本をたくさん読んで、国語をもっと
好きになろう！



数学 分析

「等式を目的に応じて変形することができる」「作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している」「命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる」「筋道を立てて考え、証明することができる」など数学的な見方・考え方、技能、知識・理解全般に渡って全国平均を大幅に上回っています。しかし、錯覚・内角・範囲・相対度数等の語句の理解度に課題がありました。

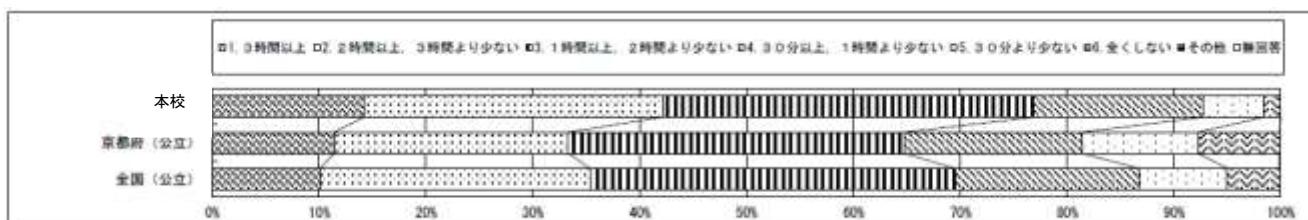
基礎的な語句の意味を
確実にとらえよう！



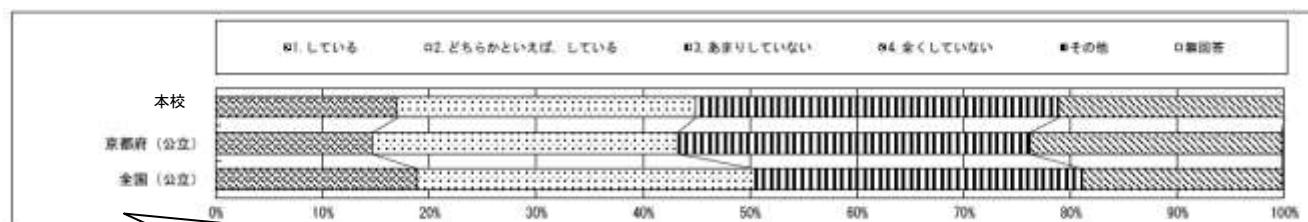
生徒質問紙調査から①

(塾・家庭教師を含む)

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか？



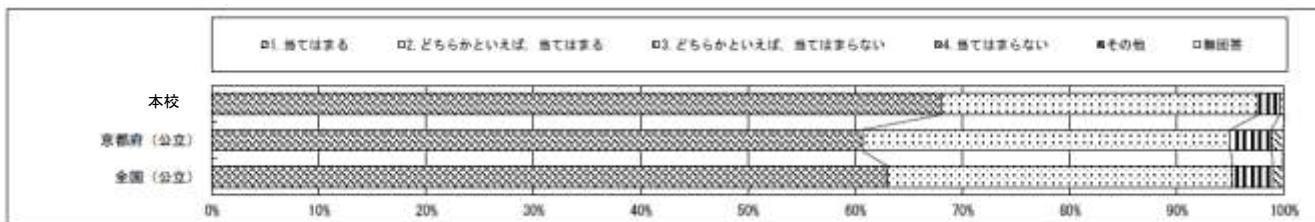
Q 家で、学校の授業の復習をしていますか？



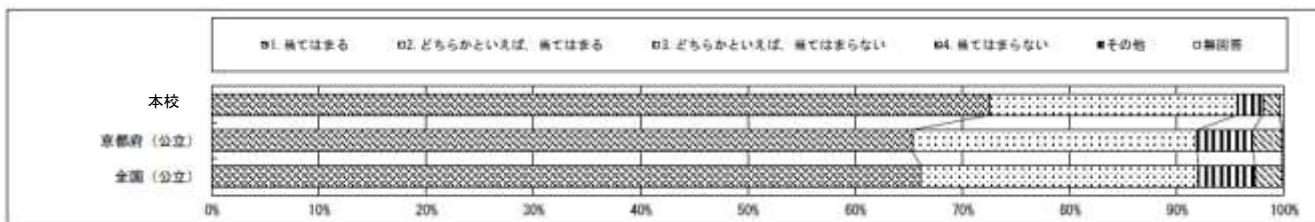
全国平均と比較しても、学習時間の長い生徒がやはり多いです。しかし、復習にあてる時間が少ないとということは、塾等での学習時間がそのほとんどではないかと推測されます。家庭でも主体的に学ぶ意欲を持って、取り組めばもっと伸びると思われます。

生徒質問紙調査から②

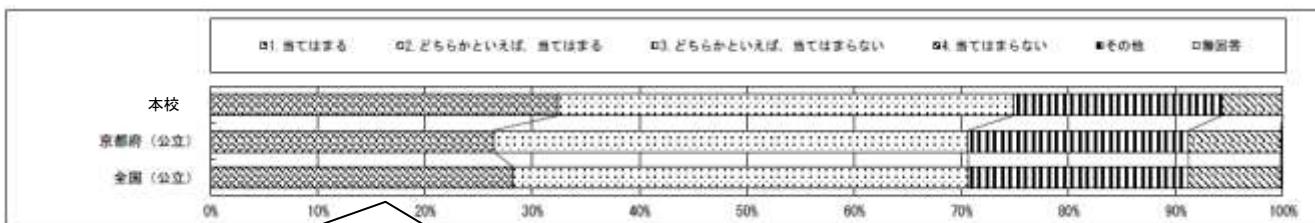
Q 学校の規則を守っていますか？



Q 人の役に立つ人間になりたいと思いますか？



Q 自分には、よいところがあると思いますか？



規範意識や自己有用感の高い生徒は、学力も高い傾向が出ていますが、本校の生徒はきまりを守り、人のために尽くす意識も高いです。また昨年度まではあまり高くなかった自尊意識も全国平均を大幅に上回り、意識改革が進んでいることが分かります。このような意識が、高い学力の基本となっていると考えられます。

全体を通して本校の成果と課題

本校では、日常の授業改善（主体的・対話的で深い学び）や学習会、「図書館教育」（言語活動）、「道徳教育」（豊かな心）に取り組んできました。その結果、昨年度以上に主体的に取り組む意欲が伸び、基本的生活習慣や学習習慣も定着し、規範意識も高く、将来への展望を強く持ち、自己有用感も高くなってきました。そのことが様々な学校生活の優秀さはもちろんのこと、学習面において抜群の結果になった一因と考えることができます。しかし、生徒質問紙調査①で示したように、塾での学習だけでなく、家庭学習（復習・予習）を積極的に取り組むことができれば一層の伸長が期待できます。

人物的に大変優れた面を持っているので、今後も基礎的・基本的な内容を大切にしながら、主体的に何事にも取り組む姿勢を一層培うことができれば、大幅な成長が期待できます。学校としても、今後も興味・関心を高める授業の展開工夫、基礎・基本の反復学習、主体的・対話的で深い学びのための学習の推進、道徳を中心とした心の教育の充実など一層の工夫をした取り組みを継続・発展させていきたいと考えています。

